

金融経済概観

金融市場動向

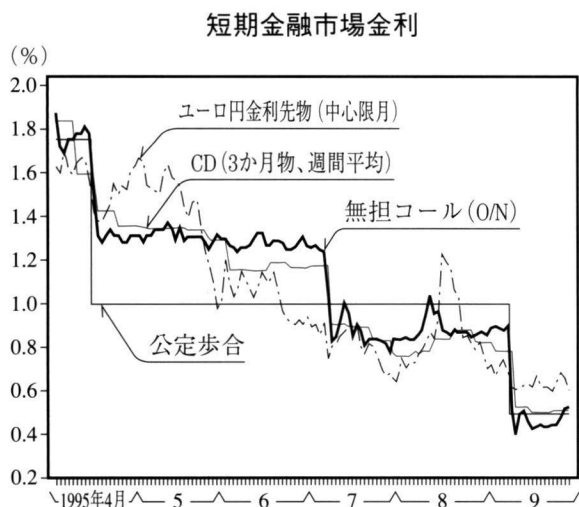
— 平成7年9月 —

(平成7年10月17日)

1. 短期金融市場

9月中の無担コール・オーバーナイト物レートは、8日の公定歩合引き下げ(1.0%→0.5%)および市場金利の引き下げ措置を受けて大幅に低下し、その後はほぼ横這いで推移した。CD(譲渡性預金)3か月物レートは、月初は出合い難の状況が続いていたが、中旬以降は0.5%前後で横這いとなった。一方、ユーロ円金利先物(3か月物、金利ベース)は、上旬に低下した後概ね横這いで推移し、結局0.6%強の水準で越月した。

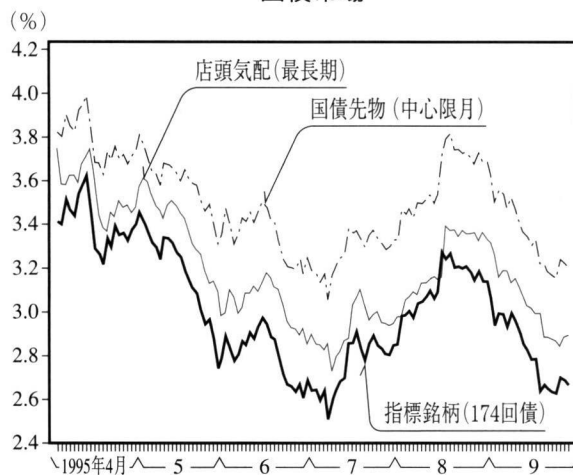
コール・プロパー手形市場資金平均残高(全国)は、41兆2,160億円と前月(42兆5,507億円)に比べ減少した。



2. 資本市場

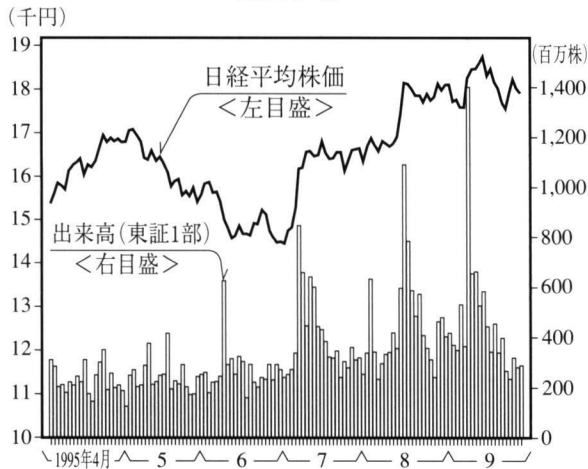
9月の長期国債利回り(174回債)は、公定歩合引き下げおよび市場金利引き下げ措置による短期金利の低下を映じ、月中を通じて低下基調を辿り、結局2.665%で越月した(前月末3.140%、国債先物中心限月利回りは3.206%<前月末3.692%>で越月)。国債の出来高は、現物(店頭取引)、先物ともに前月を下回った。

既発債市場利回り
— 国債市場 —



株式市況(日経平均株価)は、長短金利の低下や円高修正の進展を受けて月央にかけて上昇したが、その後はやや軟化し、結局17,913円と前月末(18,117円)を下回って越月した。株式出来高(東証1部、月中1営業日平均)は、

株式市場



4.63億株（速報）と前月（4.52億株）を上回った。

9月の国内公募普通社債は、企業の起債意欲が活発化し、月中6,310億円（8月3,200億円）と既往ピーク（93年9月：5,950億円）を更新した。一方、国内エクイティ市場での発行（9月払い込み分、増資を除く）は、発行体の業績回復見通し難等から、引き続き低水準の発行となった（8月900億円→9月100億円）。

3. 外国為替市場

9月の円の対米ドル直物相場（東京市場）は、介入警戒感の強まり等を受けて上旬から中旬に

外国為替市場



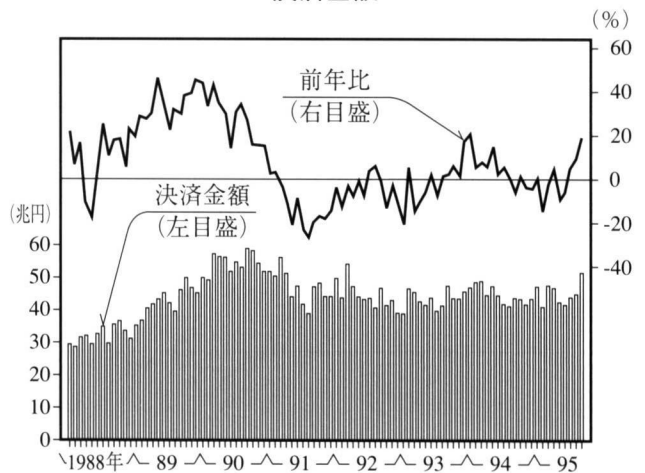
かけ下落、94年6月以来約1年3か月ぶりに104円台を記録した。もっとも、その後は反発して100円前後で推移、結局98.18円（17時時点）で越月した（前月末97.46円）。円の対独マルク直物相場（東京市場）は、月央にかけて下落した後、揉み合いに終始し、結局69.27円（17時時点）で越月した（前月末66.34円）。

この間、東京外国為替市場の出来高（円対米ドル、直物および先物・スワップ計、1営業日平均）は271.2億ドルと、前月（238.1億ドル）を上回った。

4. 決 済

9月の資金決済の金額（1営業日平均）をみると、手形交換高（東京）は前年同月を大幅に下回った（前年比△38.2%）が、全銀システム取扱高は前年同月を上回った（同+8.3%）。この間、外為円決済交換高は前年同月を上回った（前年比+44.2%）。また、国債の決済金額（1営業日平均）については、移転登録、振決口座振替ともに前年同月を上回った（移転登録：前年比+53.5%、振決口座振替：同+21.1%）。

決済金額



(注) 1. 1営業日平均。
2. 手形交換高(東京)、全銀システム取扱高、外為円決済交換高の合計額。

5. 資金需給、金融調節

9月の資金需給をみると、銀行券要因は336億円の余剰（前年同月1,132億円の余剰）となった一方、財政等要因が4兆8,839億円の不足（同1兆6,358億円の不足）となったことから、全体では4兆8,503億円の不足（同1兆5,226億円の不足）となった。

こうした状況下、日本銀行はFB買い戻し等により資金を供給した。

10月の資金需給（国債発行織り込み前）を窺うと、銀行券要因は3,500億円程度の余剰（前年同月1,353億円の余剰）となる見通しであり、財政等要因は、受入面で源泉所得税を中心とする税揚げ等が見込まれるものの、支払面で国債償還や国民・厚生年金等の支払いが高むことから、4兆9,600億円程度の余剰（同2兆8,098億円の余剰）となり、全体では、5兆3,100億円程度の資金余剰（同2兆9,451億円の余剰）となるものと予想される。

6. マネーサプライ、銀行券、預金・貸出

8月のM₂+CD平残前年比伸び率は+2.8%（速報）と前月に比べ0.1%ポイント低下した。また、広義流動性の平残前年比伸び率は+3.7%（速報）と前月比横這いとなった。

9月の銀行券平残前年比は+4.8%と前月（+4.5%）に比べ若干上昇した。

9月中の金融機関の預金・貸出動向をみると、預金平残（実質預金+CD、都銀、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+2.8%と前月比伸び率が上昇した。一方、総貸出平残（都銀、長信、信託、地銀、地銀Ⅱ）の前年比は+1.6%と、前月に比べ0.4%ポイント上昇した（5か月連続の前年比プラス）。

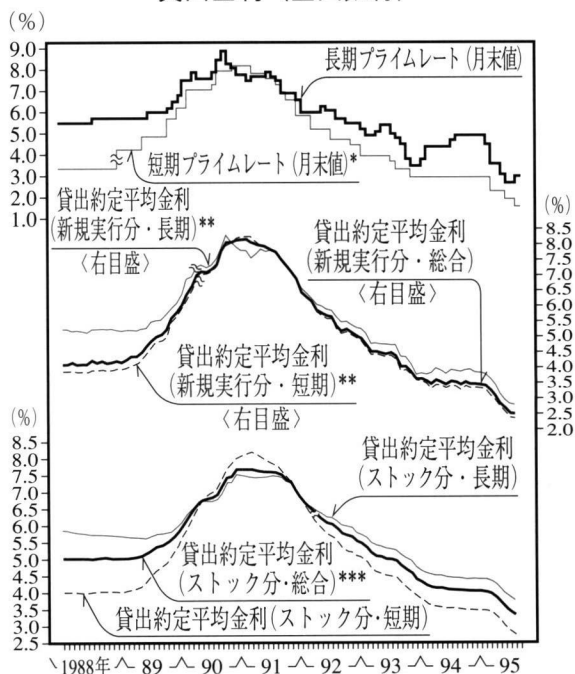
7. 貸出・預金金利

8月中の貸出約定平均金利（全国銀行）をみると、新規実行分については、短期が7か月連続、長期が9か月連続で低下した（短期：前月比△0.034%、長期：同△0.027%）ため、総合でも10か月連続で低下し（同△0.020%、7月2.540%→8月2.520%）、既往ボトムを更新した。

また、ストック分についても、短期、長期、当座貸越ともに低下し（短期：前月比△0.098%、長期：同△0.107%、当座貸越：同△0.113%）、総合では26か月連続で既往ボトムを更新した（総合：7月3.454%→8月3.353%）。

この間、8月の定期預金金利（自由金利分<1千万円以上>、3か月以上6か月未満の全銀受入金利平均）は、前月に比べ低下した（7月0.843%→8月0.744%）。

貸出金利（全国銀行）



（注）* 1989年1月以降は都市銀行の中で最も多くの銀行が採用した金利。

** 1990年4月以降は地方銀行Ⅱを含む。

*** 1992年4月以降は当座貸越を含む。

（調査統計局）